

日本人漂流記

862

1

80



漂流記

合巻

国立国会図書館



日本人漂流記

天保十二年壬午五月五日
御奉行松屋敷新五郎味多
事一 臣等初出言言

土佐守佐南船

船名

信蔵

水主

主

日

書

日

虎

日

系

大正十二年五月五日

虎

系

系

系

一 船の波をこらして 船の波をこらして 船の波をこらして

一 船の波をこらして 船の波をこらして 船の波をこらして

一 船の波をこらして 船の波をこらして 船の波をこらして

一 船の波をこらして 船の波をこらして 船の波をこらして

一 船の波をこらして 船の波をこらして 船の波をこらして

一 船の波をこらして 船の波をこらして 船の波をこらして

一 船の波をこらして 船の波をこらして 船の波をこらして

一 船の波をこらして 船の波をこらして 船の波をこらして

一 船の波をこらして 船の波をこらして 船の波をこらして

一 船の波をこらして 船の波をこらして 船の波をこらして

一 船の波をこらして 船の波をこらして 船の波をこらして

一 船の波をこらして 船の波をこらして 船の波をこらして

一 船の波をこらして 船の波をこらして 船の波をこらして

一 船の波をこらして 船の波をこらして 船の波をこらして

一 ハフ國の時侯りかの九月に於て一十年中迄は
一 度板を板に於て一に於て

一 板の事よりアメリカの教える事と母のせり
日中のえりやかく板を戸を閉て板ありやま

一 是に板を板に於て板に神をありや
一 多し田の草屋の草定を也その中にまは上合
りた糸を法固一様をまをるも上高やるとん

一 魚をその網の板に魚を日中少くも
少くも魚多し一漁事一海女海の岩の底に
カをる板不し

一 板をその一板をその一板をその一板をその一板をその
一 板をその一板をその一板をその一板をその一板をその
一 板をその一板をその一板をその一板をその一板をその



一 板をその一板をその一板をその一板をその一板をその
一 板をその一板をその一板をその一板をその一板をその
一 板をその一板をその一板をその一板をその一板をその

一 板をその一板をその一板をその一板をその一板をその
一 板をその一板をその一板をその一板をその一板をその
一 板をその一板をその一板をその一板をその一板をその



年号は... 海島... の事

一 海島に車... 七人... の事

一 海島に車... 亦... の事

一 海島に車... の事

一 文字二十... 十... 角... の事

一 日... 大... の事

一 人物... 篤... 人殺し... の事

一 一... 切... 適... の事

一 ... 多... の事

一 夢... 式... 女... の事

一 連... 極... 神... の事

一 ... 人... 怪... の事

一 一... の物... 世... の事

一 ... の事

一 ... の人... の事

一 ... の事

一 ... の事

一 ... の事

一 ... の事

一 ... の事

一 ... の事

一 ... の事

一 ... の事

一 ... の事

有るは是は腰の帯の又傍に一種の裸の女の形を
小娘女の顔の形に造りヤシラの言ひを人死すの
集を料理して喰ふと云ふヤシラの言ひをアハシ煙所と
云ふと云ふ事なり

一 或時後を向くハラ西ノ陸を鬼の島と云ふ
所は物々々々其ハアメリカノ所は深き別海と云ふ
所ハ昔は海と云ふ事ナリ今ハ海と云ふ事ナリ
所ハ昔は海と云ふ事ナリ今ハ海と云ふ事ナリ

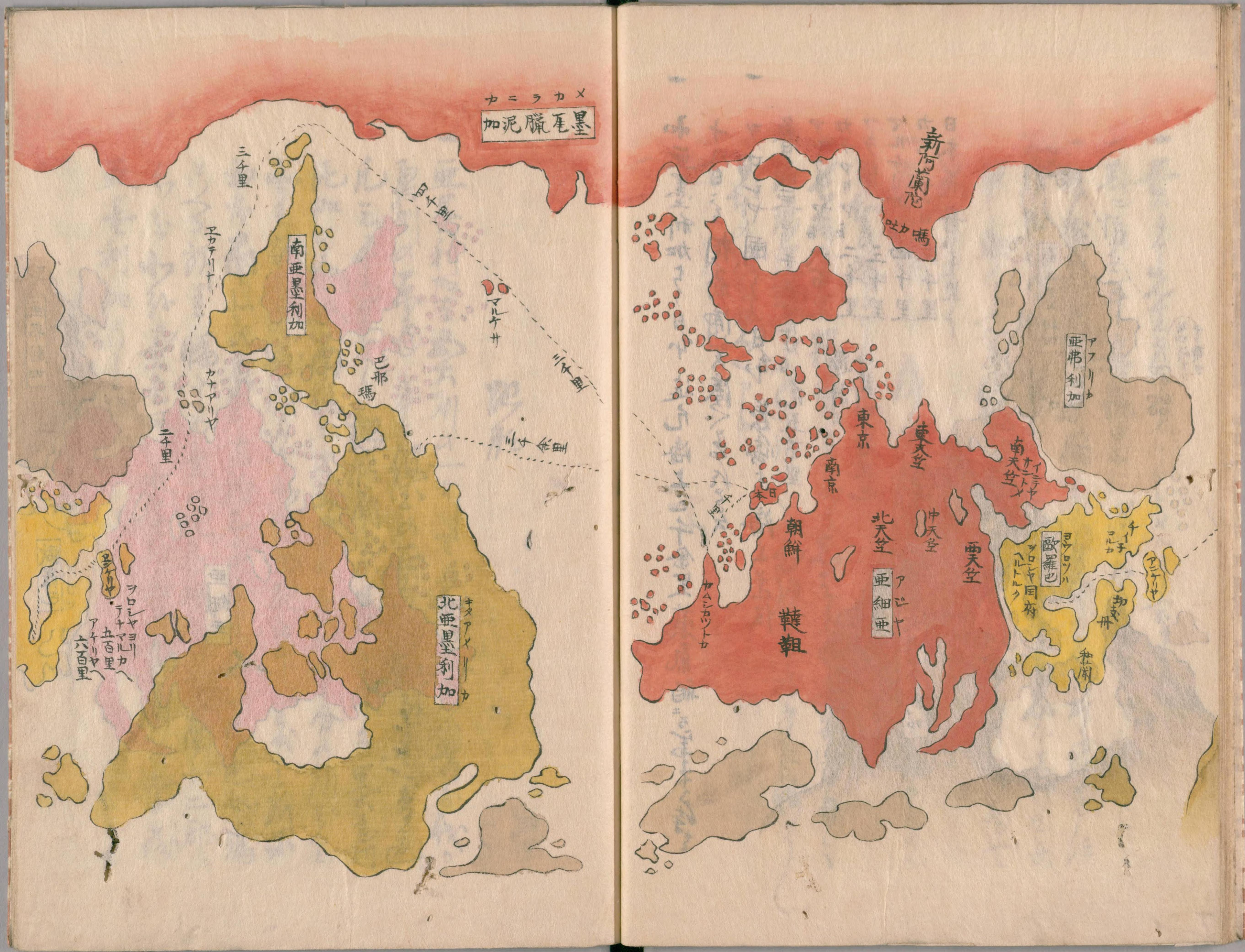
一 氣流師言 何れハ海と云ふ事ナリ今ハ海と云ふ事ナリ
調ひ知 一 更ハ南アメリカ國の金山より金を
掘るハ地温多ク今ハ自然に海と云ふ事ナリ
是なる事ナリ 一 度金山の事ナリ今ハ海と云ふ事ナリ

ハ暖気 一 更ハ金山の事ナリ今ハ海と云ふ事ナリ
おに金 一 更ハ金山の事ナリ今ハ海と云ふ事ナリ
宗和 一 更ハ金山の事ナリ今ハ海と云ふ事ナリ
おら 一 更ハ金山の事ナリ今ハ海と云ふ事ナリ

一 万海師 一 更ハ金山の事ナリ今ハ海と云ふ事ナリ
一 更ハ金山の事ナリ今ハ海と云ふ事ナリ
ハルの海子 一 更ハ金山の事ナリ今ハ海と云ふ事ナリ
ハフ國の海子 一 更ハ金山の事ナリ今ハ海と云ふ事ナリ
一 更ハ金山の事ナリ今ハ海と云ふ事ナリ

一 ハフ國の海子 一 更ハ金山の事ナリ今ハ海と云ふ事ナリ





星洲



地形

一 亞墨利加を大別の一州を以て南の正東の岸を我々の
東側の東色(東)と云ふ。彼等の西色(西)に我々の東の東色
凡三千里(約)の地。南の北の長く南を墨色利
泥加の海峡(セ)南極の地也。中は南の三分の所を
北を(北)の道門(ミ)と云ふ。北極の地也。中は南の三分の所を
北を南の長く。大約三千余里。南に巴那(バ)瑪
ら。南の幅十万里の地を垠(キ)と云ふ。南に二部
多。北を墨色(墨)利加(利)といふ。南を墨色(墨)利加(利)
墨色(墨)利加(利)といふ。南を墨色(墨)利加(利)といふ。

墨色(墨)利加(利)といふ。南を墨色(墨)利加(利)といふ。

東西之新... 又... 天下... 南... 西... 東... 加... 利... 別... 松... の海... 中... 古... 巴... 牙... 美... 湖... 水... 多... も... 多... く... 家... 候... も... 大... の... 同... 行... り... 墨... 墨... 可... の... 傍... と... 東... 加... 利... 別... 松... の... 海... 中... 古... 巴... 牙... 美... の... 地... の... 各... ち... の... 處... 國... 行... り... 岳... 高... 山... ち... 川... 湖... 水... 多... も... 多... く... 家... 候... も... 大... の... 同... 行... り... 墨... 墨... 可... の... 傍... と... 東... 加... 利... 別... 松... の... 海... 中... 古... 巴... 牙... 美...

加... 小... 伊... 西... 把... 你... 亞... 魯... の... 法... ち... 處... 岳... 高... 山... ち... 川... 湖... 水... 多... も... 多... く... 家... 候... も... 大... の... 同... 行... り... 墨... 墨... 可... の... 傍... と... 東... 加... 利... 別... 松... の... 海... 中... 古... 巴... 牙... 美... 南... 出... 岬... 小... 散... 律... 起... ころ... ぶ... 岩... 行... り... 墨... 墨... 可... の... 傍... と... 東... 加... 利... 別... 松... の... 海... 中... 古... 巴... 牙... 美... 散... 律... 起... ころ... ぶ... 岩... 行... り... 墨... 墨... 可... の... 傍... と... 東... 加... 利... 別... 松... の... 海... 中... 古... 巴... 牙... 美...



人物

一 亞墨利加の人物を以て種類一々に分ちて概別せしむ
四種あり一は歐羅巴の法別伊西把你亞
佛二帝察。袁太利亞。諸尼利亞。和景院
の人生を以て住居を以ての也。一は二の交利と欣より
その他女歐羅巴人の交利を以て産たふらふのし。一は三の
ニ厄尔私より一は先亞細亞。亞非利加の法を以て
中々を以て住居を以てのし。一は四の諸見怪しむ是は條
の土人ナリを以て。一は五の諸部。暴暴りふらふのし。一は六の
穢の三は業より一は七の諸部。暴暴りふらふのし。一は八の
別もれり。會歎小吳むらふ。又角利。非你。表の人物の

衣飾を西洋人の如くするも形をかりて人小からある
如く服も長く整ふも是

婚姻

一 婚姻の禮を以て婦を以ていふ。一は一の高の田を徳長

カセ人よりあり。一は二の婚姻の禮を以ていふ。一は三の婚姻の禮を以ていふ。一は四の婚姻の禮を以ていふ。一は五の婚姻の禮を以ていふ。一は六の婚姻の禮を以ていふ。一は七の婚姻の禮を以ていふ。一は八の婚姻の禮を以ていふ。一は九の婚姻の禮を以ていふ。一は十の婚姻の禮を以ていふ。一は十一の婚姻の禮を以ていふ。一は十二の婚姻の禮を以ていふ。一は十三の婚姻の禮を以ていふ。一は十四の婚姻の禮を以ていふ。一は十五の婚姻の禮を以ていふ。一は十六の婚姻の禮を以ていふ。一は十七の婚姻の禮を以ていふ。一は十八の婚姻の禮を以ていふ。一は十九の婚姻の禮を以ていふ。一は二十の婚姻の禮を以ていふ。一は二十一の婚姻の禮を以ていふ。一は二十二の婚姻の禮を以ていふ。一は二十三の婚姻の禮を以ていふ。一は二十四の婚姻の禮を以ていふ。一は二十五の婚姻の禮を以ていふ。一は二十六の婚姻の禮を以ていふ。一は二十七の婚姻の禮を以ていふ。一は二十八の婚姻の禮を以ていふ。一は二十九の婚姻の禮を以ていふ。一は三十の婚姻の禮を以ていふ。一は三十一の婚姻の禮を以ていふ。一は三十二の婚姻の禮を以ていふ。一は三十三の婚姻の禮を以ていふ。一は三十四の婚姻の禮を以ていふ。一は三十五の婚姻の禮を以ていふ。一は三十六の婚姻の禮を以ていふ。一は三十七の婚姻の禮を以ていふ。一は三十八の婚姻の禮を以ていふ。一は三十九の婚姻の禮を以ていふ。一は四十の婚姻の禮を以ていふ。一は四十一の婚姻の禮を以ていふ。一は四十二の婚姻の禮を以ていふ。一は四十三の婚姻の禮を以ていふ。一は四十四の婚姻の禮を以ていふ。一は四十五の婚姻の禮を以ていふ。一は四十六の婚姻の禮を以ていふ。一は四十七の婚姻の禮を以ていふ。一は四十八の婚姻の禮を以ていふ。一は四十九の婚姻の禮を以ていふ。一は五十の婚姻の禮を以ていふ。一は五十一の婚姻の禮を以ていふ。一は五十二の婚姻の禮を以ていふ。一は五十三の婚姻の禮を以ていふ。一は五十四の婚姻の禮を以ていふ。一は五十五の婚姻の禮を以ていふ。一は五十六の婚姻の禮を以ていふ。一は五十七の婚姻の禮を以ていふ。一は五十八の婚姻の禮を以ていふ。一は五十九の婚姻の禮を以ていふ。一は六十の婚姻の禮を以ていふ。一は六十一の婚姻の禮を以ていふ。一は六十二の婚姻の禮を以ていふ。一は六十三の婚姻の禮を以ていふ。一は六十四の婚姻の禮を以ていふ。一は六十五の婚姻の禮を以ていふ。一は六十六の婚姻の禮を以ていふ。一は六十七の婚姻の禮を以ていふ。一は六十八の婚姻の禮を以ていふ。一は六十九の婚姻の禮を以ていふ。一は七十の婚姻の禮を以ていふ。一は七十一の婚姻の禮を以ていふ。一は七十二の婚姻の禮を以ていふ。一は七十三の婚姻の禮を以ていふ。一は七十四の婚姻の禮を以ていふ。一は七十五の婚姻の禮を以ていふ。一は七十六の婚姻の禮を以ていふ。一は七十七の婚姻の禮を以ていふ。一は七十八の婚姻の禮を以ていふ。一は七十九の婚姻の禮を以ていふ。一は八十の婚姻の禮を以ていふ。一は八十一の婚姻の禮を以ていふ。一は八十二の婚姻の禮を以ていふ。一は八十三の婚姻の禮を以ていふ。一は八十四の婚姻の禮を以ていふ。一は八十五の婚姻の禮を以ていふ。一は八十六の婚姻の禮を以ていふ。一は八十七の婚姻の禮を以ていふ。一は八十八の婚姻の禮を以ていふ。一は八十九の婚姻の禮を以ていふ。一は九十の婚姻の禮を以ていふ。一は九十一の婚姻の禮を以ていふ。一は九十二の婚姻の禮を以ていふ。一は九十三の婚姻の禮を以ていふ。一は九十四の婚姻の禮を以ていふ。一は九十五の婚姻の禮を以ていふ。一は九十六の婚姻の禮を以ていふ。一は九十七の婚姻の禮を以ていふ。一は九十八の婚姻の禮を以ていふ。一は九十九の婚姻の禮を以ていふ。一は百の婚姻の禮を以ていふ。

アメリカの陸砲の制をなす一
かきやうの小やうの大砲はな
引金のせんは ヒラキ 燧石と
接しあはせし

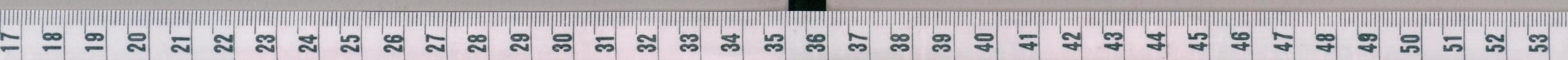


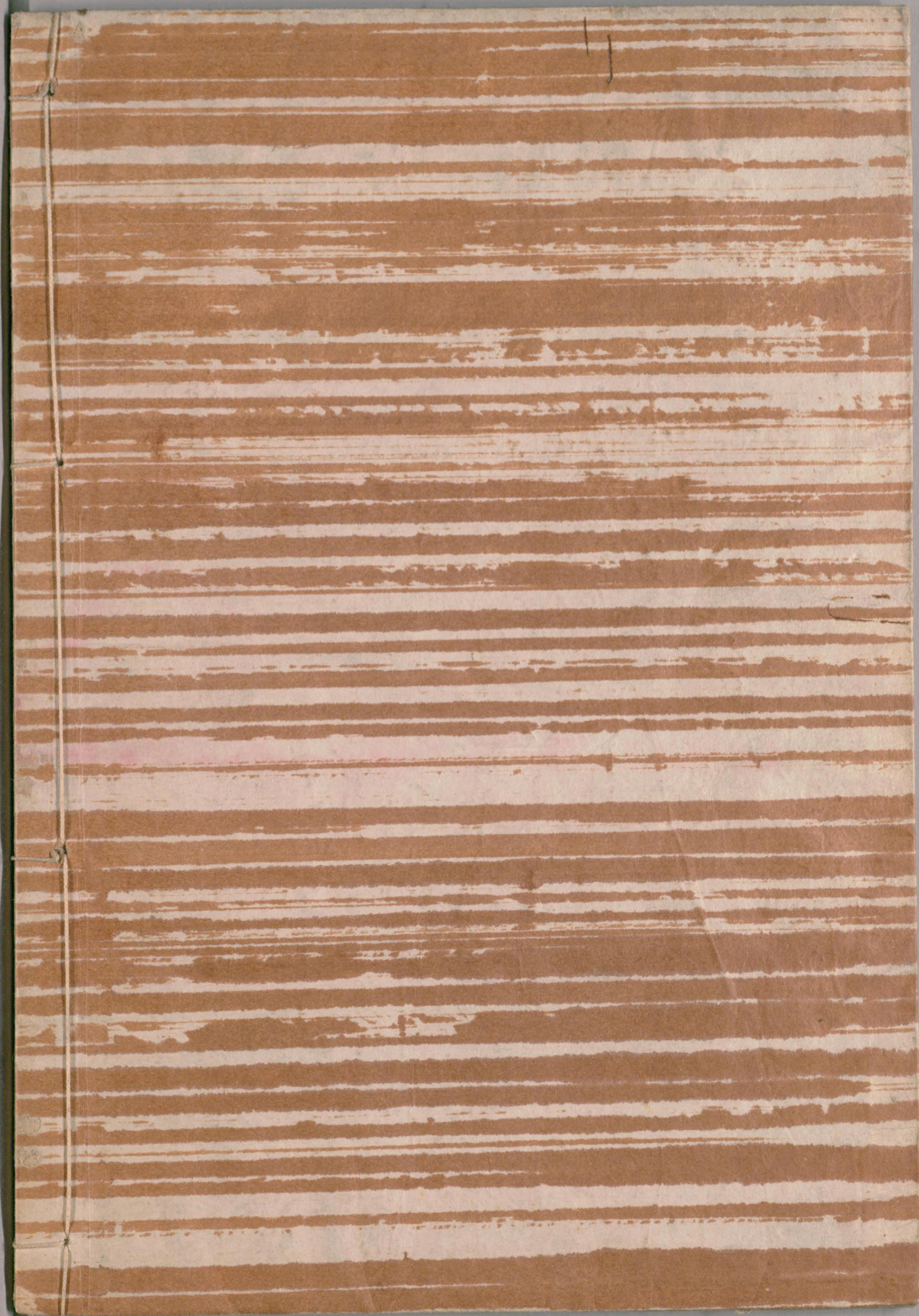
陸砲隊の
一隊の指揮

カキヤウ
カキヤウ
カキヤウ



安政六年八月廿五日 水戸殿前中津屋に
各罪科の御詠ふ
志いし次ありし風の御
何れも休む事難し
...





国立国会図書館 タイトル『日本人漂流記』 請求記号 862-1

ガラス使用